allcinema

狂熱（1921）

FIEVRE

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 フランス
色彩 B&W
時間 28分
初公開日 不明

【解説】

３３才の若さで早世し、生涯でわずか６本の作品しか作れなかったにも拘わらず、現在も“ルイ・デリュック賞”として名を残すフランスの前衛的な映像作家ルイ・デリュック。この「狂熱」はその彼の２本目の作品であり、彼が唱える所の“フォトジェニー”論を実践した代表作である。

舞台はマルセイユの港町。小さな酒場を営むトピネリとその妻サラは、酔いつぶれた客をいつものようにもてなしていた。そこへ、長い航海を終えた船乗り達がやって来る。続いて街の娼婦達も押し寄せ、店は一気に賑い始めた。船乗りの中には、かつてサラの恋人だったミリティスの姿があった。やがてお互いの存在に気付く二人。ミリティスは航海先で病床を見舞ってくれた中国女を連れており、サラに妻だと紹介する。しばし気まずい雰囲気の中、自動ピアノの音と共に踊り出すサラとミリティスを見たトピネリは、二人の関係に気付いた。そこへたまたま酔っぱらい同志の喧嘩が始まり、巻き込まれるようにトピネリとミリティスの争いが始まる。その果てに待っていたものは……。

単純な物語とほとんど小さな酒場のみに限定された舞台の中で、カメラで人間心理をスケッチしていく様なディティールの積み重ねがこの作品を内容豊かなものにしている。彼の死後、彼が唱えた“フォトジェニー”は後世の映画人に受け継がれ、その後のフランス映画の流れを決めていった。その意味でもこの作品はフランス映画の始祖的存在と言えるだろう。尚、現在発売されているビデオは２８分の短縮版。

【クレジット】

監督	ルイ・デリュック	Louis Delluc
脚本	ルイ・デリュック	Louis Delluc
撮影	アルフォンス・ボギー	
	ジョルジェ・ルカ	
出演	エーブ・フランシス	
	エドモン・バン・ダエル	
	エレナ・サグラソ	
	ガストン・モドー	Gaston Modot

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.